



第59回

パーフェクトプログラム

車両事業部生産本部和歌山製造部製造2課線路係第1班 班長

きづき
杵築利久さん



レール加工の主力機械といえるのが、各種レールを自動加工するマシニングセンター(以下MC)だ。センサーや様々な形状の研削用の刃がセットされたツールは30種類にも及び、細かなプログラムによって自動選択され稼働する。このMCのプログラミングを担当しているのが杵築班長(平成4年入社、37歳)。「MCのプログラミングはコード数も多く煩雑で、小数点ひとつのミスで製品はもちろん機械本体の破損にもつながりかねませんから、入力にはとても気を遣います。新しいプログラムを組んだ時は、レールを入れずに事前の動作チェックを行っています。現在、プログラミングできるのが私一人という状況なので、2名の後継者育成が直近の課題です」と杵築班長。リピートプログラムに対しては、無駄な動作がないかを注視しながら、プログラミングの改良を行っている。班員5名のうち4名は杵築班長より年長者。班をまとめ上げるのにも何かと気を遣うのでは? 「杵築班長はフライス盤、ボール盤、ノコ盤等の作業も自分から率先してやりますから、班員はその後ろ姿を見て自然とついていくという感じですね。杵築班長のもう一つ優れた所は、確かな工程管理です。レールの加工工程は種類によって様々ですが、出荷3日前には次工程に送るのが原則。週1回、工程会議で調整していきますが、イレギュラーのオーダーが出て迅速に調整してくれます。頼れる班長です」と中井係長は語る。

仕事とプライベート、オンとオフの切り替えはストレスを溜めないためにも大切にしているそうだ。「休日は家族と過ごすのが好きですね。家内とショッピングに行くのも嫌いじゃありません。高速道路が上限千円の時は、よく東京デイズニールランドまで遊びに行きました。運転はちょっと大変ですけど、家族が喜ぶのを見ると仕事の疲れも解消しますね」と言う杵築班長。良き夫であり、二人のお子さん(長女・小6、長男・小2)の良き父である。